

会議録

会議名	第3回（仮称）宇都宮市国際化推進計画策定懇談会
開催日時	平成20年11月25日（火） 午前9時30分～午前11時50分
開催場所	宇都宮市役所 14階14B会議室
出席者	委員 田巻松雄，白井佳子，和田佐英子，上野和夫，酒井昭二，中田隆人，西房美，半貫光芳，石川アンナ，福泉水玲，阿久津容子，黒瀬裕二（12名 敬称略）
	事務局 市民生活部長，市民生活部次長，国際交流プラザ所長 事務局職員3名
公開・非公開	公開
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 第2回「（仮称）宇都宮市国際化推進計画」策定懇談会議事録について 2 報告事項 在住外国人地区別データについて 3 審議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・施策の体系について ・重点事業・リーディングプランについて ・計画の目標値について ・各主体の役割について
次第	<ol style="list-style-type: none"> (1)開会 (2)第2回の議事録の確定 (3)審議事項 施策の体系，重点事業，リーディングプラン，目標値，各主体の役割について ・事務局から資料2・3・4・5に基づき説明・協議
会議の結果	・施策の体系，重点事業，リーディングプラン，目標値，各主体の役割について了承
発言要旨	
【審議事項 施策の体系について】	
委員	・事業概要の中で「多文化共生に関する意識啓発」について，これまでの取り組みにはどのようなものがあるか？多文化公共圏センターでも連続講座を予定しており，事業展開にあたり協力できたらよい。
事務局	・事業の展開としては，学校への出前講座を行っている。今後は在住外国人の生活する地域や在籍する企業への出前講座も積極的に行いたい。教育機関や地域と連携して取り組めると大変ありがたい。
委員	・学校や企業への出前講座についての具体的な展開は？
事務局	・企業には現在のところ伺っていないが，学校での講座については，総合的な学習の時間を使って姉妹都市や本市の国際化の現状を説明している。
委員	・学校での出前講座に関する相談は実際にはどのように行っているのか？
委員	・子ども向けの国際理解講座なら今年度でも実施できるはず。来年度のスケジュールはちょうど今頃から組み始めるところなので，直接学校に相談されると良い。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座については、特定の個人の資質に頼ってしまうと定着していかないので、特異性に頼らないしくみづくりが必要だろう。意識啓発事業が根付いていくということが大切だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 計画の推進に当たっては、個々のNPO活動を支えているのは実は一部の方であり、そこに過重な負担をかけるような状況になるとせつかくのNPO活動をつぶすことになりかねない。民間活動をどう支えていくのか、役割分担をしたことで行政の役割が終わったということではない。 特に策定当初よりも景気が悪化している中、国際交流にゆとりを持って活動する人ばかりでなく、雇用や生存を脅かされている人も増えてきている。そういう人への手当てをどうするのか。事業の展開によっては、今の民間のボランティアに相談などが集中し、民間の負担が大きくなって活動ができなくなってしまうことになりかねない。民間を圧迫しないようにその両面を見ていくことが必要だ。経済状況の変化がかなり切迫している。その辺りの支援体制も必要なのではないかと思う。相談体制や外国人に関わっているボランティアにしわ寄せが行ってしまうような気がする。5年間の計画での対応と喫緊の課題への対応についても配慮が必要ではないか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 5年間の計画の中での事業と、金融危機に始まる景気の悪化に伴う何らかの取り組みの必要性について少し議論を進めたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生に関する意識啓発の中で、出前講座は地域にいい意味でインパクトを与える。必要性を地域が感じ、共感を持ってもらうことも必要である。キーパーソンにも入ってもらえとなお良い。 先ごろの国際交流協会の会議で、日本語指導を各地域でやっていく必要があるという意見やボランティアだからと言ってすべて自分持ちで実施するということではないのではないか、という意見が出た。民間団体への支援について裏づけを持って計画を進めていくことが必要なのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生ということが議論になっているが、日本人側として何を以って多文化共生かということがわかっていないのかもしれない。従来の国際交流与多文化共生へと時代が変わってきているという意識づけを我々が持っていないといけないのではないか。ターゲットや中身が問われている。この計画において、当初に議論になった社会的に弱い立場とされる外国人の方への対応や考え方を伺う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回の策定にあたっては多文化共生に関して重点化を図る新たな視点を取り組んでいくものと考えている。頂いた提言を反映できるよう、懇談会としての意見書をまとめて一体的なものとして出させていただくことで考えている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生と聞くと経済的に余裕のある人が対象となるイメージがあるが、経済的に厳しい状況にある人、在留資格のない人との多文化共生はなかなか出てこない。この点についてどのように考えるか意見交換を進めたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料5の中で各主体の役割にあるように、企業の役割も大切。雇用者の安全安心な生活について配慮をし、その上での協働がなければ絵に描いた餅になってしまう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 今後の都市機能を充実させていくために、今起こっている事象をどう考えるか。経済状況の悪化に伴い、生活を脅かされているような人たちが暮らしやすい都市機能を備えた宇都宮市に生活の利便性を求めて集まってくる可能性がある。 宇都宮市の都市機能を考える上で、景気悪化に伴う喫緊の課題への対応をどうするのか。

- 委員
- ・行政だけではできない部分，国や県との関係で支援が難しい部分もあると思うが，いずれやっていかなくてはいけないという認識も市にはあろう。ここまでできるという部分が明示できればその先は民間が行い，行政はその民間を支援することで間接的に関わることができるはず。民間だけでは行き詰ってしまうところに支援をすることで役割分担を果たすという考え方もある。
- 事務局
- ・国や県との連携や，民間の側面支援などにより生活者としての外国人を支援していきたい。
 - ・交流やまちづくりの視点から計画を策定しているが，緊急の課題については計画とはまた別な施策を検討していく必要がある。雇用の面では原則は国の取り組みで，市では企業が立ち行かなくなったときにそこに働く市民を守るためのもので，中小企業そのものへの支援ではなく，雇用支援を正面から行うのは難しいところではある。
- 委員
- ・失業などの状況に置かれた外国人の悩みを行政として受け取ってもらえる場所があるかということが重要であり，弾力的な対応が必要になるはずと認識している。
- 事務局
- ・コーディネートやその人のニーズに応じた相談体制などを充実できるようにしたい。
- 委員
- ・違法の部分について，手が届かなければ民間にゆだねざるを得ない部分もあるはずであり，その民間を支援することは行政として違法ではないはず。手の届かないところに手が届く民間団体へのコーディネート機能，育成機能，支援機能にシフトさせて言っても良いのではないかな。
- 事務局
- ・非合法の対応まで計画に盛り込むのは難しい部分もあるが，その対応については，今回の提言の中で頂いた中で，改めて支援の策を検討したい。
- 委員
- ・第1回の懇談会でも議論があったが，今の法制度の中でできることとできないことについても別枠でしっかりと議論をし，意見書に付記をしていくような方向性だったはずである。大切な視点であり，ゆるがせにできない視点ではあるが。
- 会長
- ・懇談会全体として大切な視点であるので再度議論をしたところだが，市がどこまでカバーできてどこまでを重要な課題として考えているのかを踏まえながら最終的な提言書をまとめたい。
 - ・具体的には相談体制を充実させること，出前講座などの意識啓発についてどういう内容が必要かということを議論していければと思う。
- 委員
- ・相談体制の充実のところでは主体が行政となっているが，専門家との連携が必要など，民間の役割もあるのではないかな。そしてソーシャルコーディネータの役割も重要になると思う。
 - ・異文化理解や多文化共生，国際交流のそれぞれの理解講座について，それほどの中身に違いは大きく変わらないとは思いますが，明確な区別はあるのかな？

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 行政書士や専門的機関と連携しながら相談業務を進めているところであり、この資料では、行政として窓口を設けているという意味合いで書いたもので、運用に当たっては民間との連携は不可欠と受け止めている 理解講座の記述については、それぞれ外国人の日本文化理解、日本人への多文化共生の意識づけ、生涯学習的なイメージの国際理解と、目的ごとに整理して載せたものである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業番号33の「民間団体への支援」についての現段階でのイメージは？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所の支援や情報提供、補助金などのしくみを用意している
委員	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの議論に出てきたような民間団体への側面支援についてはどうか。今回の懇談会の議論の中で、様々な支援策が意見として出ているので、参考にしていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市交流のあり方について、これから姉妹都市を増やしていくという考え方はないのか、民間にシフトさせていくということについて、あり方そのものの見直しも含めてどのように検討しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 現在新しい姉妹都市の締結の予定はないが、最初に締結してから20数年が経ち、相互の都市の発展のためにどのような交流をしていくことが必要かと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 行政側では増やすという考えはなくても、今後姉妹都市という看板がほしいという民間が出てきたらどうするか、あり方の検討ということであれば姉妹都市の整理という考えがあっても良いのかもしれない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市の新規の締結に当たっては、動きや盛り上がりを見定める必要があると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市交流に当たって民間と橋渡しをしていきますというスタンスも必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 通訳の登録派遣事業があがっているが、個人で通訳をしている人への支援も必要なのではないか。また、外国人向けのニュースレターを作っていると行政側の事情で掲載が難しいといわれることがある。市民だけの意識ではなく職員の多文化共生に関する意識がとても低いと思う。その辺りについても載せていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 通訳ボランティアについては、留学生が持っている語学力やネットワークを活用してやっていくと良いと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 通訳がすぐお願いできない状況にある方もいる。患者側の医療用語の通訳用語集などがあると良い。また情報手段について、効果的に伝わる方法を検討していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 外国人登録窓口でのパンフレットの配布など、はじめに窓口に来たときに肝心である。今後計画を作って、そこに職員の意識が反映されて実行されるのかが課題。実効あるものにしようという計画の意気込みを盛り込みたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 主体が民間となると、全部民間は民間でやってもらえるというのではなく、本来行政がやるべきことを民間が行うことを支援するという意識が大切。ボランティアは自発性が大切であり、イヤになったら止めてしまう。イヤにさせないしくみを考えることが大切である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 民間団体の支援・中核団体の支援について、経済的な支援があるとかなり頑張ることができる。そういった経済的な支援も必要だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 民間の担い手がどのくらいいるのか、行政が継続して実施してくれることを期待しても、ボランティアなので、動くしくみを考えないとダメだ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市については長期停滞しているような都市もあるようだが、解消していくというスタンスはあるのか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市を解消するという考えは持っていないが、新たな交流の可能性を探っていく必要はあると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 解消した例はあるのか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市町村合併による解消の事例はあるが、双方の合意がないと難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 行政だけでなく、経済関係・企業との行き来にも広がってくるはずである。
<p>【審議事項 重点事業・リーディングプランについて】</p>	
委員	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の中にアジアに対する偏見や差別的な意識が見られるように見える。意識醸成が必要だと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携について、国や県以外とも連携が可能なはずだが、その点についてはどうか。3ページの「自立した生活を送る」の「自立した」という表現についてはどうなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 法制度をつくっているのが国であること、先行してプランを作っているのが県なのではじめに表示したところだが、生活相談などで市だけで処理しきれない部分については専門家やボランティアなどとの連携も不可欠であるので、関係機関としては民間も含めて位置づけている。 自立したという表現については、同じ市民として普通に暮らしていけるというイメージを大切にしたい。特に相談や地域に溶け込めていない方への支援という意味合いで自立としたところである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨はわかるが、あまり自立という表現は好ましくない。国とあるが、国の役割は何か？

事務局	・本市にある国の機関，入国管理局，ハローワークなどを意図しているところである。また総務省などの動向を踏まえる必要があると認識している。
委員	・「地域リーダーの育成・活用」について、「活用」という表現よりは支援という言葉であればボランティアの自主性を重んじているという受け取り方ができるので一考願いたい。
委員	・計画の目的やスタンスが明確になっている感じを受けている。また，本市に住む人が増えていかなくは都市の活力が低下する。今後このような経済状況の中で，日常生活のさまざまな場面で，日本人と平等という考えでやっていく必要がある。日常生活を送っていく上で必要なコミュニティは最小で2000人，全ての業種が揃う規模では15000人という。そのような単位を意識して施策を進めていくことも効果的である。
委員	・関係機関との連携に当たっては市民活動サポートセンターや「ぼぼら」との連携も必要だろう。ボランティアの情報が集まっている組織である。
【審議事項 目標値の設定について】	
委員	・意識調査の実施は毎年実施するのか？
事務局	・中間年次と最終年次に予定している。
委員	・アンケート調査は次回改定の懇談会の前に実施すれば，データが揃って議論がしやすいので，前倒しでやっても良いのではないか。
【審議事項 各主体の役割について】	
委員	・ボランティアといった場合，国際交流協会に限ってのことか？
事務局	・全てのボランティアを包含している
委員	・ボランティアの活動に当たっては，登録制度などのシステム化などはされていたほうが良いのか？
委員	・団体によって考えもやっていることも違うので，人数が少ない組織では自分たちの力ではできない部分もある。
委員	・民間団体への支援については，行政から認められた上で支援がほしいのか，そういった物的・人的支援などの具体的なニーズをどう考えているのか。活動をされている中での状況を教えていただきたい。
委員	・協会に登録して活動を行うより地元の活動で手一杯という実情もあり，折り合いが難しいところである。
委員	・民間団体の支援の窓口として，行政は団体の実情を把握したいと思っているはずだろうが，実情がわからないと支援もなかなかできない部分もある。そうした時にボランティアの団体が事務局機能のようなものを強化したほうが，行政と民間団体の対話が進むのではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中核団体、中間支援団体としての宇都宮市国際交流協会としての機能を充実させるためにNPO法人化したところである。今後も様々な団体の情報やネットワーク化機能の強化を進めたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの窓口は協会なのか行政なのか。中核団体の役割を担う団体としての補助金も交付されている状況もある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協会に入っていない団体で活躍している現状もあるし、中核としての性格づけは理解できるが、今後強化していく部分も大きいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の中で企業の役割は今のところ大きくは書かれていないように感じるが、今後企業の担う役割についてはどう考えるか。具体的な取り組みの実情がわかり、今後何を期待し、働きかけをしていくのか、そういった意見も懇談会としてまとめていく必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・職場における多文化共生が実現となる日本語支援、地域活動への参画促進や企業の社会貢献や海外経験のある人材の発掘などに取り組みたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画を推進していくための民間団体の受け皿がたくさんあるとはまだまだいえない。市も協会も民間団体の支援を考えながら進めていかなくてはいけない。民間団体をつぶさないように取り組むことが望ましい。 ・民間団体は基本的にはテーマ型。本来行政がやるべきものを民間団体に全部シフトさせても、結局仕事だけが残ってしまう。企業についてはCSRに本来力を入れたくても経済状況がきびしくなっている状況もある。企業に支援してもらうだけでなく、行政がCSRに取り組みやすいよう支援するなど、連携を深めると今後が見えてくるのでは思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の民間団体だけではできない部分もあるので、協会の役割がより重要になると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後市はボランティアの現状を理解し、ボランティアが増えるような仕掛けと後押しが必要なのではないか。設定した指標とも関連する点でもある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市が中小企業の支援に関して行っているデータをいただきたい。
【その他】	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会は当初4回予定だったが、最終的には5回開催を予定している。次回は12月22日、14B会議室を予定している。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは次回は12月22日に第4回を開催する。 以上で、第3回懇談会を終了する。